

研究概要

本年度の研究の流れ

- ①アンケート実施、集計（4月中）
- ②授業提案（6/18 研推・9/10 未定・10/29 未定・1/28 未定）
園内研（6/27・11/7・1/16）指導講評：牧田先生
- ③研究のまとめ方を研推で夏までに検討
- ④紀要無しの為、デジタル資料でまとめる（保存先検討）
- ⑤研究成果アンケートまとめ（2月）

研究のストーリーライン

教員の指導力を高めるために、体育の研究授業を通して授業に関するメタ認知能力を高めていく。そのために研究授業では、学習展開、教師行動、児童理解の3点から授業を分析し、教科の特性にこだわることなく教員同士で授業について意見交換を行っていく。教員各自が自身の授業を見つめ、持っているアイデア、指導技術、経験等を協議会を通して共有し、自分の授業に生かすことができれば、児童にとっても教員にとってもよりよい学習ができるようになる。

また、日常の授業に、研究協議会から学んだことを生かすことができるようになれば、教員の指導力は向上し、他の教科においても指導方法を応用的に取り入れることができるようになる。そして、自信をもって教科指導に当たることができるようになり、児童にとっての効果的な学習につなげることができる。

研究の位置付け

【校内研究の根拠】 ※教師に求められる資質能力の再整理（文部科学省 2021.08.03）より

＜学習指導等に主として関するもの＞

- ・関係法令、学習指導要領及び子供の心身の発達や学習過程に関する理解に基づき、子供たちの「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、学習者中心の授業を創造することができる。
- ・カリキュラム・マネジメントの意義を理解し、教科等横断的な視点や教育課程の評価、人的・物的な体制の確保・改善等の観点をもって、組織的かつ計画的に教育課程を編成・実施し、常に学校の実態に応じて改善しようとしている。
- ・子供の興味・関心を引き出す教材研究や、他の教師と協働した授業研究などを行いながら、授業設計・実践・評価・改善等を行うことができる。
- ・各教科等においてそれぞれの特質に応じた見方・考え方を働かせながら、資質・能力を育むために必要となる各教科等の専門的知識を身に付けている。

※下線太字は元資料のまま転載

研究授業3つの柱

- ◎授業展開の工夫……【指導技術（学習展開）】
課題解決型の授業展開で児童同士の深い学びを引き出す
- ◎児童理解の取組……【教材解釈、教材開発】
児童の実態把握に努め、運動に対する意欲を引き出す
- ◎教師行動の改善……【指導技術（学習展開）】
意図的な言葉掛けを行い、児童同士の深い学びを引き出す